



# 田谷の風

第36号

発行日:平成 31 年 1 月 10 日(四半期発行)  
介護老人保健施設ケアポート・田谷機関紙  
〒244-0844 横浜市栄区田谷町 2030-3  
TEL:045-858-5882  
発行責任者:吉田憲一



皆様明けましておめでとうございます。  
新年が皆様にとって 良い年でありますように。

2019



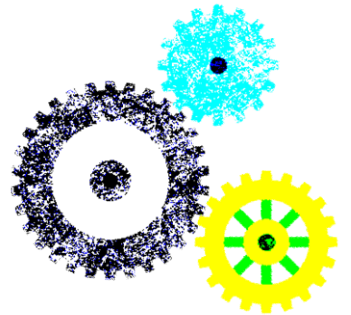
施設長 吉田憲一

最近(と言っても数カ月前)の事です。デイケアの或る利用者様から、ちょっと変わった少し不思議な体験をお聞きしました。曰く、この頃何かの拍子に急に眼の調子がおかしくなることがある。突然目の前がゆらゆらして、ノコギリの歯のようなギザギザしたものが見えまわり始める。しばらくすると落ち着いてきて何事もなかったように元に戻る。時に頭痛がくることもある。これはいったいなんでしょう?と。



症状が時間の経過とともに変わり、あとに残らない事から、何か循環器系の異常か、ひょっとしたメンタルなものかなどと考えました。そして昔の教科書を引っ張り出して調べたりして思いあつたのが閃輝暗点(せんきあんてん)です。教科書的には突然視野にきらきら光る点やジグザグ模様などが現れ、しばしば回転し視野全般に広がる事もある、原因

は脳後頭葉視覚野の血管の攣縮によるものと言われていて、しばしば頭痛を伴うが、通常脳梗塞、出血、失明等の重篤な合併症後遺症はありませんとの事。そう心配なものではないようですと利用者様にはお返事しました。このことで思い出したのがもう 40 年以上前の大学での眼科の講義です。教授は閃輝暗点の講義の後で余談ですがと前置きして、芥川龍之介と閃輝暗点について話をしました。芥川は言わずと知れた小説家で、短編小説の名手として知られ蜘蛛の糸、鼻、杜子春、羅生門など有名な作品が多数あります。その中で最晩年の作品に小説歯車があります。歯車の中に(視野の中に妙なものを見つけた。絶えず廻っている半透明の歯車だった。中略 歯車は次第に次第に数を増やし、視野を塞ぐ



が長くはなく暫くして元に戻る。のちに頭痛が残る)と言う一節があり、これはまさに閃輝暗点でしょうというわけです。彼はこの年に自死するわけですが、近親者に精神病患者がおり彼は自分も発症するのではないかと大変恐れていたそうです。閃輝暗点も精神疾患と関連があるのではと考えていたようで閃輝暗点が自殺の一因になったかとも言われているようです。最後に芥川に関するトリビアを二つほど。龍之介という名前の由来は、彼が辰年、辰月、辰日、辰刻に生まれたからこうなづけられたとの事。もうひとつは有名な黒澤明の映画羅生門の原作は羅生門ではなく、藪の中という小説です。やはり芥川作品で映画同様、殺人事件の当事者、目撃者、関係者の証言が食い違いいったい何が真実なのか?



本当の事が見えにくい時代になりましたね。



# 2018 Christmas Party 入所



12月15日(土)にクリスマス会が行われました。サンタさんやトナカイの司会で開会の挨拶をしてから、オトラ・ヴェスさんによる演奏が始まりました。

オトラ・ヴェスは南米出身の先生が率いるグループで、カラフルな民族衣装をまとい、南米のケーナ、チャランゴ。サンポーニャと呼ばれる楽器を使い演奏したり、南米の歌を唄ったりしています。とても陽気な音楽が流れて、利用者さんたちがうっとりしていました。

40分に及ぶ演奏はあっという間に終わり、皆様とても楽しまれていました。

その後、利用者さん達は、「北国の春」の歌に合わせて体操を行いました。なじみの曲でもあり、1ヶ月前から昼、夕御飯前に練習した成果で、利用者さん達は大きく手を振ったりして、全身を動かして楽しく体操しました。

最後にクリスマス会に欠かせないクリスマスの定番の歌を職員のピアノ伴奏で歌いました。皆様は澄んだ声で「きよし、この夜」を歌ってクリスマス会を締めくくりました。

今年も皆様とても楽しまれ、来年も楽しい会に出来るように頑張っています。

2階介護 王 紫媚



平成30年12月15日にクリスマス会を行いました。2階のフロアーにてデイクア、2・3階の入所者様が参加されました。

開会式では皆様緊張されていましたが、オトラ・ヴェスさんの演奏が始まると演奏の音色にリラックスされ、皆様緊張がほぐれて演奏の途中には手拍子と、歌声が聞かれるようになりました。

最後のきよしこの夜の合唱では、皆様息が合う歌声に職員感動いたしました。

職員の出し物では、千昌夫の「北国の春」の歌に合わせて体操を職員、入所者皆様で行いました。2階、3階は職員、入所者様と2週間前から練習をしていた為皆様歌も交えて体操を行い、終始笑顔でした。

ラストのきよしこの夜は、オトラ・ヴェスさんの演奏の最後で歌われていたので、楽器(鈴)、手拍子などがあり、大変盛り上がりました。会の途中体調不良者、事故なく無事に会が行えた事は協力して下さった職員の皆様と、会を盛り上げて下さった入居者様の皆様のお力のお陰です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

3階介護 野村 悠子







デイケアでは12月24日、25日の二日間でクリスマス会を行いました。毎年の恒例行事ではありますが、皆さんに楽しんでもらうイベントを行うときにはいつも頭を悩ませています。職員の誰が勝つかを予想する卓球大会、利用者様が正解者を当てるクイズダービー、利用者様の歌声に合わせて演奏するハンドベル。利用者様が一緒になって楽しんでもらえるよう職員同士でアイデアを出し合い準備してきました。通常のリハビリや入浴を行いながら



の1時間という短時間のイベントでしたが、ギュッと凝縮した濃い内容でお届けできたと思います。皆さんの笑顔を受け職員のテンションも上がって一緒に楽しみながら共有する時間を過ごすことが出来ました。イベントの最中にも、反省する事や新しいアイデアなどが頭の中で



山浮かび、些か気が早いですが来年のクリスマス会に活かして行きより良いイベントを提供していきたいと感じました。今年も色んな出来事がありましたが、高いモチベーションを保っていくのに必要なのは何といたっても利用者様の優しい言葉と笑顔です。今年の締めくくりにたくさんの笑顔のプレゼントを頂きました。来年の糧にしていき新しい年を元気に迎えたいと思います。



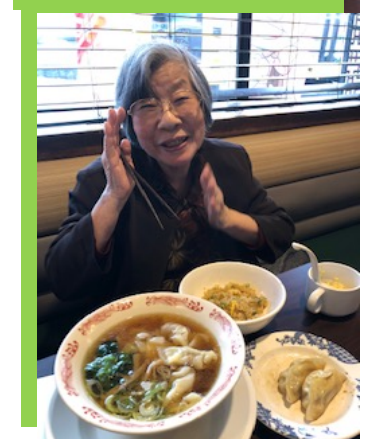
通所介護主任 大塚 秀行

## 外食レクリエーション 平成30年12月6日 外食レクリエーション

当施設では、日常生活の中で、少しでも変化や刺激のある生活を過ごして頂けるように出前レクや

外食レク・映画レク・お花見などいろいろなレクを企画させて頂いています。今回は、近所のファミリーレストランへお昼ご飯を食べに行きました。

施設からレストランまでの車内でもワクワクした気持ちが伝わってくる言葉が多く聞かれ、車窓からの景色も楽しみながらレストランに到着しました。レストランでは、メニューと睨めっこ、「どれもおいしそうね・・・あら～どうしましょう～」タンメン・海老丼・回鍋肉・チャーハン・ワンタン、色鮮やかなメニューを見ただけで笑みがこぼれます。「お腹いっぱい食べた。もう無理です」と言われていたのに、デザートはやはり別腹です。アイス・ゴマ団子・イチゴアンニンもアッという間に完食です。一緒に食べている私達に「少しあげる、味見してみて」「こっちも食べてみて」と母親のような言葉が聞かれ、やさしいお母さんの姿を垣間見ることができました。又、若い頃の思い出の話を伺うことにより、一人一人の生活の歴史について感じる事ができ、ホッとした気持ちになりました。



引き続き、ご家族様からのご意見やご指導を頂戴しながら、一人一人のご要望やご意向に添える企画などを検討し楽しみのある生活を過ごして頂きたいと思っております。 介護支援専門員 平井 恵子



明けましておめでとうございます。  
本年も宜しくお願いいたします。

## 今年のおせち料理

毎年この紙面上で紹介させていただいている当施設の「おせち」。今年も無事、元日の昼食時に利用者様の元へお届けすることができました。



今年のおせちは、鰯の麴焼きをメインに据え、定番の伊達巻、寿蒲鉾、昆布巻き、栗きんとんの他、花とうふや錦糸卵の真丈などで彩りを加えました。中でもなますは柚子皮で風味を出し、更にいくらを乗せるという豪華版。普段、いくらなどの生ものは、衛生的な観点からなかなかお出しすることが難しいのですが、せっかくのお正月ということで、心ばかり添えさせていただきました。



早朝から準備したおせちは、幸いにも皆様には大変喜んでいただけたようで、手作りの御品書を眺めながらいつもよりじっくりと時間をかけて召し上がっている方が多



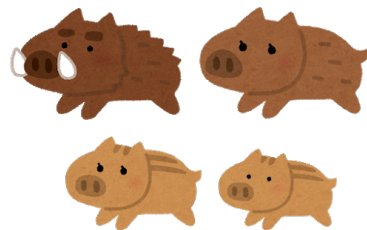
くいらっしゃいました。

これからも食を通して皆様に笑顔にできるよう、様々なイベントを企画していきたく思いますので、ぜひ楽しみにされていくください。

栄養科副主任 江崎ふみ

## 2019年は「亥」年

今年は平成が終わり、新たな年号を迎える特別な年ですが、年号が変わってもずっと変わらないのが「干支」です。この「干支」はるか昔、古



代中国の殷の時代（紀元前 15～14 世紀）に誕生した暦で、日本でも弥生時代から方角や時刻、日付を表すものとして使われていたようです。「子・丑・寅・・・」と子供の頃から唱え、特にお正月になると意識されるのが「今年の干支」、いまや日常生活に欠かせない概念となっています。

日本ではこの干支の由来について、大昔、神様が「一月一日の朝、一番から十二番目までに来たものを一年



交代で動物の大將にする」という手紙を書き、それを受け取った全国の動物たちが必死に走ったその結果だと言いつたわれています。（牛の背中に

に乗っていたねずみが「神様おめでとうございますチュウ」とぴょんと飛び降り一番になったとか。）が、最近、干支の起源である中国では亥＝豚を表し、豚はとても身近で親しみをこめた意味になると知り、文化の違いの面白さをあらためて感じました。

デイケアでは昨年 11 月～12 月にかけて恒例の干支の壁画制作を行いました。四季折々の草花の中を楽しく駆け巡る猪の親子です。事務所前の壁に飾られていますのでぜひ実物をご覧ください。猪は猪突猛進・万病予防、また亥年は、十二支の中でも一番最後の年であることから次の始まりに向けて新たなエネルギーを蓄える年といわれています。今年一年が皆様にとって穏やかな年となりますように・・・

今年も奉らせて頂きました。  
集まったお賽銭は、後日五霊神社へ奉納させて頂きます。



田谷五霊神社  
テポト

通所支援相談員  
酒井 恵子